トピック(テーマ)			栗岩英治
ねらい			長野県の史学の伝統はわらじ史学と言われ、現場に足を運んで体感して歴史を考える点にあり、その出発点が栗岩英治。栗岩英治の代表的著作、業績を紹介する。
キーワード			信濃史料　長野県町村誌　市河文書　古文書　信濃古牧　信濃荘園　下水内　諏訪　善光寺　上杉謙信　宗良親王　穂高神社　海神族
概要を知るためのツール	1	書名	信濃史料 ［第1巻ー第28巻］
		著者名	信濃史料刊行会／編
		出版社	信濃史料刊行会
		出版年	1956－1970
		内容紹介	信濃史料刊行会長となった元信濃毎日新聞社長小坂武雄はその序で次のように述べている。「昭和16年秋のことであった。時の長野県知事鈴木登氏から私に対して、「昭和5年以来、長野県史編纂委員栗岩英治氏の手で集めた史料が、いま、県の土蔵に一杯ある。このままにしておいては、一向役に立たないばかりでなく、将来どんなことで散逸しないとも限らない。いまのうちに整理しておきたいが、信濃毎日新聞社の事業としてやってくれまいか。県でも毎年2千円づつ三ヵ年補助をするから」との依頼があった。…… かくて、事務所を信濃毎日新聞社内に移し、栗岩氏を中心として、著々と史料の蒐集整理を進めたが、祖国は間もなく太平洋戦争に突入し、戦況の激化するにつれ、世を挙げて他を顧みる余裕を失うに至った。然し、栗岩氏の熱意は毫も衰えず、史料山積の一室に坐し、独りこつこつとして蟻の塔を積み続けていたのである。… こうして積み重ねた成果は、既に刊行できる段階に達したので、昭和26年12月、長野県及び長野県教育委員会の力強い協力を得て、信濃史料刊行会を再組織し、東京大学教授坂本太郎・同宝月圭吾・国学院大学教授大場磐雄の三氏に監修を依頼し、一志茂樹氏を編集主任に、金井喜久一郎・米山一政の両氏を常任編集委員として、再出発することになった。…」
	2	書名	栗岩英治先生略年譜
		著者名	信濃史料刊行会／編
		出版社	信濃史料刊行会
		出版年	1978年
		内容紹介	年譜
	3	書名	栗岩英治先生
		著者名	飯山市外様公民館／［編］
		出版社	飯山市外様公民館
		出版年	1997.3
		内容紹介	明治～昭和期の郷土史家、新聞記者、長野県史編纂委員。長野新聞編集長。明治11(1878)年10月1日～年昭和21(1946)年9月11日。出生地長野県水内郡寿村(現・飯山市)。
資料リスト	1	書名	栗岩英治日記
		著者名	栗岩英治／著
		出版社	ほおずき書籍
		出版年	1990年
		内容紹介	数々の郷土史の先駆となった著者の日記
	2	書名	栗岩英治の詩境と年譜
		著者名	奥山小枝子／著
		出版社	金井喜久一郎
		出版年	1985年
		内容紹介	
	3	書名	信州の人脈 ［上］
		著者名	信濃毎日新聞社／著
		出版社	信濃毎日新聞社
		出版年	1966年
		内容紹介	信濃史料生みの親。南の市村咸人、諏訪の今井真樹、松本の堀内千万蔵、上田の藤沢直衛と並び称される。県内をくまなく歩き、両足の裏には大きな”歩きタコ”が三つずつあったほどで、県内は足を踏み入れない村はなかったといわれる。

	4	書名	信濃国地字略考 ［上巻］
		著者名	栗岩英治／著
		出版社	村及町研究所
		出版年	1936年
		内容紹介	タイトル読み シナノノクニ チアザ リャッコウ
	5	書名	宗良親王と其の時代
		著者名	栗岩英治／著
		出版社	信濃毎日新聞社
		出版年	1941年
		内容紹介	「南北朝時代の信濃根本史料略」もあり。
雑誌	1	論題名	栗岩英治『栗岩英治日記』―新しい地方史像をもとめて―
		著者名	井原今朝男
		雑誌名	信濃
		巻号頁数	3次42巻7号
	2	論題名	栗岩英治君と其追憶
		著者名	八木貞助
		雑誌名	信濃
		巻号頁数	2次21巻10号
	3	論題名	栗岩英治「稿本信濃庄園の研究」
		著者名	栗岩英治
		雑誌名	信濃
		巻号頁数	1次4巻9号
インターネット情報	1	サイト名	信州地域史料アーカイブ
		URL	https://adeac.jp/shinshu-chiiki/
	2	サイト名	国立国会図書館サーチ
		URL	http://iss.ndl.go.jp/
新聞	1	記事	わらじ史学
		発行機関	信濃毎日新聞社（データベース）
		年月日	2018.1.3
	2	記事	栗岩の資料 没後70周年
		発行機関	信濃毎日新聞社（データベース）
		年月日	2017.1.5
	3	記事	米沢史料探訪
		発行機関	信濃毎日新聞社（データベース）
		年月日	2009.9.1